

# Fukui Health Science University Graduate School

保健医療学研究科 保健医療学専攻

- 神経系リハビリテーションコース
- 運動器リハビリテーションコース
- 健康生活支援コース



- 福井駅西口バスターミナル②番③番のりばから約35分、「福井医療大学」下車。
- えちぜん鉄道三国芦原線「新田塚駅」下車、福井総合クリニック停留所から京福バス26系統福井総合病院線で「福井医療大学」下車。

 福井医療大学大学院

福井医療大学 入学広報室 | 〒910-3190 福井市江上町55-13-1

☎(0776)59-2207 ✉daigaku@fukui-hsu.ac.jp



 福井医療大学大学院 修士課程

# 現代社会のニーズに応える 人材を育成。

近年、医療の進歩・発展に伴い、保健医療関連職に対する社会的ニーズは多様化しており、細分化・専門化した精緻な医療と、総合的・全人的視点からのケアが求められています。そのような社会的ニーズに応えることができる人材を育成するには、大学院レベルでの教育が不可欠です。また、これまで福井県にはリハビリテーション領域の大学院がありませんでした。このような背景を踏まえ、福井医療大学では大学院を開設しました。「神経系リハビリテーション」「運動器リハビリテーション」そして「健康生活支援」に焦点を当てた3つのコースを設け、高度な専門性と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を目指します。



## 3つのポイント

POINT <b>01</b>	POINT <b>02</b>	POINT <b>03</b>
福井県唯一の リハビリテーション領域 の大学院	「健康生活」という 新たな視点で学ぶ コース	新田塚医療福祉 センターの 多彩な併設施設

研究科・専攻の名称 保健医療学研究科 保健医療学専攻 <small>Graduate School of Health and Medicine Course of Health and Medicine</small>	学位の名称 修士(保健医療学) <small>Master of Health and Medicine</small>
修業年限、定員 修業年限2年(長期履修制度あり)、入学定員10名、収容定員20名	



## 教育目標

科学的根拠に基づいた医療および生活の支援を実践する能力、  
研究を通して培った科学的・論理的思考を活かし、  
新たな方向性を創造する研究力、  
さらに後進の育成を推進する教育力をもった、  
高度専門職業人の育成を目標とする。

## 学長ご挨拶

高齢化社会に必要なとされる高度医療実践者・研究者などを育成します。

福井医療大学は理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、看護学の高度な知識と技術を身に付け、人間性豊かで、質の高い医療人の育成に努めてきました。さらに高度な専門知識や技能を有する研究者、教育者、高度医療実践者の育成を目指して、令和3年4月より大学院修士課程として保健医療学研究科、保健医療学専攻を開設しました。本研究科ではあらゆるライフサイクル、ライフステージにおける人の健康管理を助け、疾病からの早期回復を促すための最適な方法を研究するため、神経系リハビリテーションコース、運動器リハビリテーションコース、健康生活支援コースの3つの研究コースを設けました。共通科目と専門科目の講義、演習や特別研究を通して、保健医療学分野の研究推進とともにその実践を担うリーダーを養成していきます。高齢化社会が進む中で、身体的、精神的に問題を抱え、リハビリテーションや介護を必要とする人も多くなり、これらの人々を支える高度医療実践者や研究者、指導者の育成は待たないです。さらに健康障害を予防する研究や実践も今まで以上に重要となります。本大学院では保健医療学に関する幅広い学識と卓越した問題解決能力を有する

高度専門職業人や研究者や教育者として専門領域および地域に貢献して、社会の信頼にこたえることのできる指導者を輩出していきます。リハビリテーション領域の大学院は福井県唯一で、注目度が高く、期待も大きく、しっかりとカリキュラムを構成し、優秀な教員による指導体制で皆さんをお迎えします。本学の母体となる新田塚医療センターは多くの保健・医療施設を有していますので、医療・福祉の現場を身近に感じながら学ぶことができる充実した教育環境が整っています。有職者が離職することなく就学できる体制を整え、病院などに勤務しながら無理なく勉学、研究に励むことも可能です。



学長/医学博士 山口明夫

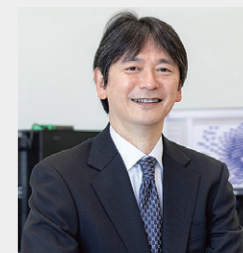
保健・医療・福祉の場で指導的役割を果たす高度職業人や教育研究者としてのキャリアアップを目指したいという熱い志を持った方々を心から歓迎します。

## 研究科長ご挨拶

本大学院ならではの特色ある学びで、みなさんのキャリアアップをお手伝いします。

福井医療大学大学院は、リハビリテーションや看護を専門分野とする大学新卒者や、既にその臨床現場で活躍している方々、さらに医療・保健・福祉の分野に属する様々な方々が、より高い目標に向かって学習し、研究を行うことを目的としています。特色としては以下の3つが挙げられます。第1の特色は、専門性に富んだ3つのコースです。神経系リハビリテーションコースでは、脳科学の基礎を学び、様々な機器を用いて新しい知見を見出す研究や、地域における高齢者や障害者への支援に繋がる研究を指導します。運動器リハビリテーションコースでは、骨・関節疾患やスポーツ障害に関する評価・治療を学び、幅広い現場でその能力を発揮できる人材育成を目指します。健康生活支援コースでは、あらゆるライフサイクル・ライフステージ・場において地域住民の健康増進・再獲得に貢献できる実践者・指導者を育成します。いずれのコースでも、学生の皆さんが学びたいと思うテーマに沿った研究指導教員が指導にあたり、課題の実現に向けた研究活動をお手伝いさせていただきます。第2の特色は、当校が様々な関連施設を有することです。隣接の福井総合病院では急性期から回復期までの神経系・運動器のリハビリテーション対象患者さんや、生活習慣病を有する患者さんが多く入院されており、現場の医療スタッフ

とともに臨床研究を進めていくことができます。また、外来施設、精神病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設では、各々の専門領域に沿ったテーマを見出すことができるかもしれません。さらに、福井県リハビリテーション支援センター、福井県高次脳機能障害支援センター、地域包括支援センターなどの委託事業を通して地域社会との連携を学ぶにはとても適した環境にあります。第3の特色は、研究環境の充実です。MRI・SPECTはもとより、fMRI、fNIRS、デジタル脳波計、視線解析装置、筋電計、Driving Simulatorなど様々な機器を用いた臨床研究を、関連施設で実際の患者さんにもご協力いただく形で進めていくことが可能です。従って、皆さんのアイデアを色々な形で具現化して行ける環境を提供できます。



副学長・研究科長/医学博士 小林康孝

本大学院では、これらの特色を生かして、自己研鑽や社会貢献を目指したいという意欲のある皆さんの入学をお待ちしています。

養成する人材像

保健医療学分野を先導する研究・実践を行える人材

学問的基盤を有し、保健医療に関わる高度専門知識・技術を有する臨床実践者。すなわち、

- ①脳・神経領域における疾病・障害
- ②運動器領域における疾病・障害
- ③健康増進と再獲得及び疾病予防

これらに関する課題を解明する能力を身につけ、創造的・実践的な専門知識と専門技術を有する高度専門職業人。

高い倫理観と豊かな人間性をもって地域に貢献できる人材

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場において、地域住民に対する健康増進・再獲得、疾病予防・治療、障害予防・治療に関し、多職種連携の相互理解を図り、チーム医療に貢献できる指導的能力を持った実践者。



神経系リハビリテーションコースの履修例

1年前期				1年後期				2年前期				2年後期			
月	AM	PM		月	AM	PM		月	AM	PM		月	AM	PM	
月				月				月				月			
火			必修	火			必修	火				火			特別研究
水			必修	水			必修	水				水			特別研究
木			必修	木			必修	木				木			
金			特別研究	金			特別研究	金				金			
土				土				土				土			

2年間のスケジュール

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1年次	入学		研究課題の決定及び計画の立案			
	入学オリエンテーション	履修指導・研究課題の相談	「研究課題届出書」提出			
		研究領域および指導教員の希望				
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	研究計画に基づく研究の遂行					
2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月
			研究計画に基づく研究の遂行			
		「中間発表会」での発表				
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	修士論文の執筆					
		「論文審査申請書」の提出	修士論文の提出	修士論文の雑誌投稿	修了式	修了(学位記の交付)
			主査・副査による審査最終試験(口頭試問)			

学生納付金

入学金	学費(前期分)	学費(後期分)	初年度納入金額
200,000*	300,000	300,000	800,000

※本学の卒業生は入学金免除

奨学金

くわしくはお問い合わせください。

独立行政法人日本学生支援機構	■ 第一種奨学金 [無利子]
	■ 第二種奨学金及び入学時特別増額貸与奨学金 [利率上限(年3%)あり]

※在学中は無利子

神経系リハビリテーションコース

脳・神経系の基礎に習熟し、加齢や神経疾患に伴う精神・身体障害のメカニズムを理解したうえで患者の状態を総合的に評価。神経リハビリテーションの実践および研究によって、その回復に寄与できる知識・技術の修得をめざします。さらに、地域において多職種との連携のもと、生活行為向上へとマネジメントできる高度専門職業人としての卓越した能力を培います。

科目区分	授業科目の名称	配当年次				単位数		履修要件
		1前	1後	2前	2後	必修	選択	
共通科目	倫理学特論	◎◎				2		12単位
	国際医療学演習			◎◎		2		
	研究方法論 I	◎◎				2		
	教育学特論	◎◎				2		
	専門職連携論		◎◎			1		
	コミュニケーション特論	◎◎				1	1	
専門科目	統計解析評価学特論		◎◎				2	22単位
	健康教育特論		◎◎			1		
	健康政策論		◎◎			1		
	神経系リハビリテーション特論 I	◎◎					2	
	神経系リハビリテーション特論演習 I		◎◎				2	
	神経系リハビリテーション特論 II	◎◎					2	
	神経系リハビリテーション特論演習 II		◎◎				2	
	生涯発達学特論		◎◎				2	
	特別研究	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	10		
	就業と同様な経験/課外活動(関連施設での実践・カンファレンス)	◎					3回/週	

○:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師資格保有者  
◎:学部新卒者対象学生(就業が叶わない学部新卒者)  
※学部新卒者については、1年前期に受け入れ施設と調整しながら、平日の13:30~16:30の3回/週の臨床見学やカンファレンスをもつ

運動器リハビリテーションコース

筋骨格系の基礎に習熟し、スポーツなどに伴う運動器機能障害のメカニズムを理解したうえで、患者の状態を総合的に評価。そして、モビライゼーションやアスレチックリハビリテーションの実践および研究によって、その回復に寄与できる知識・技術の修得をめざします。さらに、地域において多職種との連携のもと、生活行為向上へとマネジメントできる高度専門職業人としての卓越した能力を培います。

科目区分	授業科目の名称	配当年次				単位数		履修要件
		1前	1後	2前	2後	必修	選択	
共通科目	倫理学特論	◎◎				2		12単位
	国際医療学演習			◎◎		2		
	研究方法論 I	◎◎				2		
	教育学特論	◎◎				2		
	専門職連携論		◎◎			1		
	プロフェッショナルリズム特論	◎◎				1	1	
専門科目	統計解析評価学特論		◎◎				2	22単位
	健康教育特論		◎◎			1		
	健康政策論		◎◎			1		
	運動器リハビリテーション特論 I	◎◎					2	
	運動器リハビリテーション特論演習 I		◎◎				2	
	運動器リハビリテーション特論 II	◎◎					2	
	運動器リハビリテーション特論演習 II		◎◎				2	
	精神健康支援学特論			◎◎			2	
	特別研究	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	10		
	就業と同様な経験/課外活動(関連施設での実践・カンファレンス)	◎					3回/週	

○:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師資格保有者  
◎:学部新卒者対象学生(就業が叶わない学部新卒者)  
※学部新卒者については、1年前期に受け入れ施設と調整しながら、平日の13:30~16:30の3回/週の臨床見学やカンファレンスをもつ

健康生活支援コース

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場における対象の精神・身体機能を総合的に評価し、我が国の健康政策に則った健康増進、疾病予防及び、障害された健康を再獲得するための支援を実践・研究することで地域に貢献します。さらに、地域において多職種との連携のもと、生活行為向上へとマネジメントできる高度専門職業人としての卓越した能力を培います。

科目区分	授業科目の名称	配当年次				単位数		履修要件
		1前	1後	2前	2後	必修	選択	
共通科目	倫理学特論	◎◎				2		12単位
	国際医療学演習			◎◎		2		
	研究方法論 I	◎◎				2		
	教育学特論	◎◎				2		
	専門職連携論		◎◎			1		
	コミュニケーション特論	◎◎				1	1	
専門科目	プロフェッショナルリズム特論	◎◎				1		22単位
	研究方法論 II		◎◎				1	
	健康教育特論		◎◎			1		
	健康政策論		◎◎			1		
	健康生活支援特論 I	◎◎					2	
	健康生活支援演習 I		◎◎				2	
	健康生活支援特論 II	◎◎					2	
	健康生活支援演習 II		◎◎				2	
	精神健康支援学特論			◎◎			2	
	特別研究	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	10		
就業と同様な経験/課外活動(関連施設での実践・カンファレンス)	◎					3回/週	平日13:30~16:30 (就業しない者対象)	
学部	解剖学総論					2		9単位
	生理学					2		
	保健医療論					2		
	基礎看護学総論					2		
	リハビリテーション概論					1		

○:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師資格保有者  
◎:学部新卒者対象学生(就業が叶わない学部新卒者)  
□:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師以外の資格保有者  
※学部新卒者については、1年前期に受け入れ施設と調整しながら、平日の13:30~16:30の3回/週の臨床見学やカンファレンスをもつ

卒業後の活躍の場

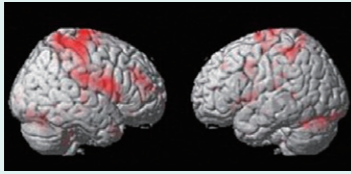
各種スポーツ団体、医療・介護の諸施設、地域での介護予防、行政関連機関、医療関連企業、大学等教育機関 など

# 教員紹介および研究テーマ

※Emailについて:アドレスは末尾に@fukui-hsu.ac.jpをつけてください。

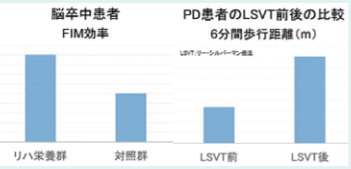
**神経系リハビリテーションコース**

副学長・研究科長(大学院)・教授 **小林 康孝**  
 博士(医学)・医師  
 Email:yasutaka\_k  
 研究テーマ  
 ●脳損傷による高次脳機能障害の病態解析  
 ●高次脳機能障害者の社会復帰支援  
 ●中枢神経疾患患者の歩行分析



**神経系リハビリテーションコース**

教授 **林 浩嗣**  
 博士(医学)・医師  
 Email:khayashi  
 研究テーマ  
 ●脳血管障害患者の予後予測  
 ●神経変性疾患のリハビリテーション  
 ●脳血管障害、神経変性疾患、認知症へのリハビリテーション栄養



**神経系リハビリテーションコース**

学部長・教授 **堀 秀昭**  
 博士(医学)・理学療法士・社会福祉士  
 Email:rpt-hori  
 研究テーマ  
 ●介護予防と健康寿命の延伸  
 ●生涯スポーツと健康増進  
 ●地域参加と社会資源の活用  
 ●地域包括ケアシステム



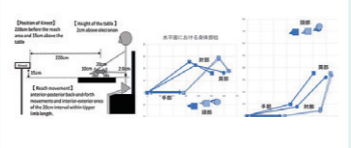
**神経系リハビリテーションコース**

教授 **藤本 昭**  
 博士(医学)・理学療法士  
 Email:akira-f  
 研究テーマ  
 ●高齢者に対する転倒予測指標  
 ●虚弱老人の介護予防対策



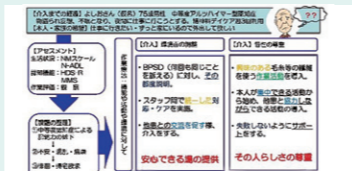
**神経系リハビリテーションコース**

教授 **石田 圭二**  
 博士(工学)・作業療法士  
 Email:ishida-ot  
 研究テーマ  
 ●脳卒中片麻痺上肢の機能評価  
 ●脳卒中片麻痺に対する上肢訓練  
 ●上肢訓練ロボット  
 ●作業療法実践に関する質的研究



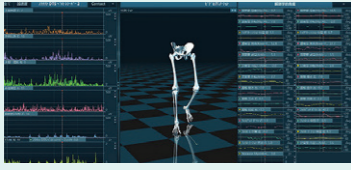
**神経系リハビリテーションコース**

教授 **堀 敦志**  
 博士(工学)・作業療法士・介護支援専門員  
 Email:otr5458  
 研究テーマ  
 ●認知症の予防および早期発見  
 ●高齢者の住環境と満足度  
 ●環境整備による在宅生活支援および開発  
 ●在宅生活維持のためのマネジメント技術の活用



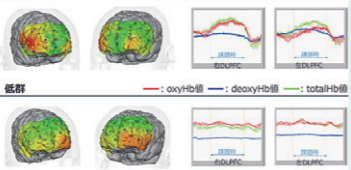
**神経系リハビリテーションコース**

講師 **藤田 和樹**  
 博士(医学/保健学)・理学療法士  
 Email:k.fujita  
 研究テーマ  
 ●歩行の障害解析およびリハビリテーション法の考究  
 ●痙攣に対するリハビリテーション  
 ●各種疾患および障害の生体運動・筋活動分析



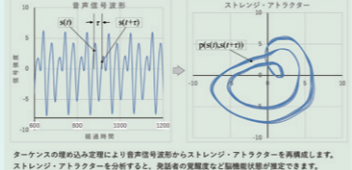
**神経系リハビリテーションコース**

講師 **川端 香**  
 博士(リハビリテーション療法学)・作業療法士  
 Email:kawabata-ot  
 研究テーマ  
 ●高次脳機能障害とSelf-Awareness  
 ●高次脳機能障害者の社会復帰支援  
 ●脳損傷後の自動車運転再開支援



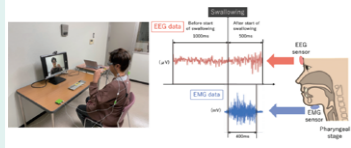
**神経系リハビリテーションコース**

塩見 格一  
 博士(理学)  
 Email:k-shiomi  
 研究テーマ  
 ●カオス理論を利用した発話音声分析技術  
 ●発話音声による脳機能状態の推定  
 ●ストレス状態とパフォーマンス評価のためのアプリケーションの開発



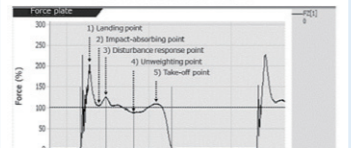
**神経系リハビリテーションコース**

保屋野 健悟  
 博士(工学)・言語聴覚士  
 Email:k.hoyano  
 研究テーマ  
 ●社会認知機能と嚥下機能の関係  
 ●環境因子を利用した摂食嚥下リハビリテーションの開発  
 ●摂食嚥下障害に対するリハビリテーション栄養  
 ●社会認知機能とコミュニケーションの関係



**運動器リハビリテーションコース**

准教授 **近藤 仁**  
 博士(保健学)・理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー  
 Email:n-azuma  
 研究テーマ  
 ●足関節背屈制限による関節運動連鎖への影響  
 ●抵抗位置の違いによる筋発揮能力への影響  
 ●スポーツ傷害と発生メカニズムとの関係



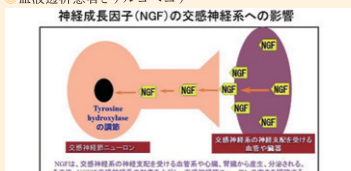
**運動器リハビリテーションコース**

東 伸英  
 博士(保健学)・理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー  
 Email:n-azuma  
 研究テーマ  
 ●スポーツ傷害の評価、治療、予防策に関する研究  
 ●検診やメディカルチェックを用いたアスリートへの支援  
 ●学校保健領域の傷害予防に関する研究



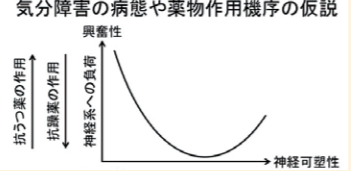
**健康生活支援コース**

教授 **供田 文宏**  
 博士(医学)・医師  
 Email:tomoda  
 研究テーマ  
 ●腎臓病における腎微小循環の異常とその成因  
 ●高血圧での交感神経系と神経成長因子との関連  
 ●生活習慣病におけるストレス反応の病態生理学的な意義  
 ●血液透析患者での至適透析の確立  
 ●血液透析患者とサルコペニア



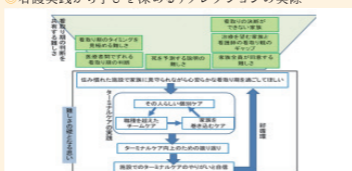
**健康生活支援コース**

教授 **小俣 直人**  
 博士(医学)・医師  
 Email:omata  
 研究テーマ  
 ●内因性精神疾患の病態解明  
 ●単一精神病論の復権  
 ●多職種が連携した研究の推進



**健康生活支援コース**

教授 **寺島 喜代子**  
 博士(医学)・看護師  
 Email:kytera  
 研究テーマ  
 ●心臓手術を受けた高齢者の社会復帰後の活動量とQOLの推移  
 ●脆弱な高齢者に対する看護実践とその評価  
 ●せん妄や認知症高齢者に対する看護実践とその評価  
 ●高齢者施設での看取りにおける看護師が直面する困難の実態  
 ●看護実践から学びを深めるリフレクションの実践




**健康生活支援コース**

教授 **北川 敦子**  
 博士(保健学)・看護師  
 Email:akbear  
 研究テーマ  
 ●褥瘡やスキンケアなどの皮膚障害に対する全人的看護方法の確立  
 ●終末期がん疾患などのがん以外のスピリチュアルペインの解明とそのケア方法  
 ●慢性期患者および家族が抱える生活の再構築に困難な要因とその支援方法  
 ●エンド・オブ・ライフケア




**健康生活支援コース**

教授 **吉田 美幸**  
 博士(看護学)・看護師  
 Email:myoshida  
 研究テーマ  
 ●医療・保健場面における子どもと家族の理解と支援に関する研究  
 ●検査や処置を受ける子どもの体験  
 ●検査や処置を受ける子どもに付き添う家族の体験  
 ●医療・保健場面における子どもと家族への支援



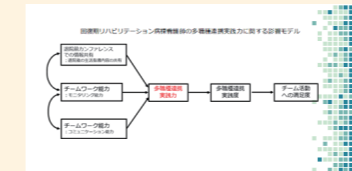
**健康生活支援コース**

准教授 **近田 真美子**  
 修士(看護学)・看護師・保健師  
 Email:mkonda  
 研究テーマ  
 ●精神看護実践の現象学的研究  
 ●重度の精神疾患を抱えた利用者の地域生活支援(AC/Assertive Community Treatment)



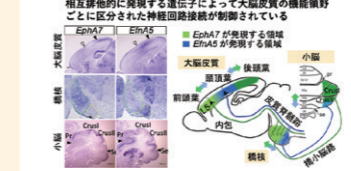
**健康生活支援コース**

講師 **吉江 由加里**  
 博士(保健学)・看護師  
 Email:y-yoshie  
 研究テーマ  
 ●回復期リハビリテーション病棟看護師の多職種連携・協働モデルの開発  
 ●専門職連携総合力教育プログラムの構築  
 ●組織マネジメントに関する研究




**健康生活支援コース**

猪口 徳一  
 博士(バイオサイエンス)  
 Email:tiguchi  
 研究テーマ  
 ●遺伝情報に基づく器官形成の仕組みと病態解明に関する研究  
 ●生化学データ解析によるストレスや健康増進のための指標の探索  
 ●実験動物や培養神経細胞を用いた神経回路操作・神経再生の研究



**健康生活支援コース**





**TEACHER'S VOICE**

正しい研究法を学び、臨床上の課題を解決する能力を養う。

私自身、過去に自分が行った臨床研究や症例報告に多くの疑問を感じていました。「その方法で本当に結論は導き出せていたか?」「結果の解釈はそれで正しかったのか?」大学院にて「研究とは何か」という問いを通じ、研究計画や研究方法について基礎から学びました。

現在の医療でエビデンスが重要視されているように、リハビリテーション分野の研究においても高い質が求められています。その質の高さは特殊な機材やソフトウェアを使用した研究をすることではなく、正しい方法で確かな結論を出すことだと思います。私の研究は脳卒中、動作解析、筋電図、脳活動、身体活動量、疲労などがテーマですが、大学院生に対しては幅広い分野の研究を指導できる体制を整えています。本大学院に入る時点では臨床や研究の経験が浅くても構いません。臨床上の疑問を解決したい方や研究力を身につけたい方は、是非共に学び成長していきましょう。

神経系リハビリテーションコース 講師 **藤田和樹**



**STUDENT'S VOICE**

仕事と研究で充実した毎日を過ごしています。

臨床活動と並行して研究活動を進めていく傍ら、先輩方のご助力を賜りながらも自分の知識不足で研究計画が上手く立てられず歯がゆく思ふ事があり、大学院への進学を希望しました。

本学は系列病院があることで臨床と密接に結びついた研究が行えることが魅力だと感じています。また、実験機器も多くそれらの経験に長けた先生が多数在籍しておられるため、どんな分野の疑問においても相談でき、様々な研究テーマに取り組むことができます。その他にも、ゼミでは他の院生と各々の研究テーマについて話し合う場が設けられており活発な討議が行われます。毎回、新しい発見が得られるため参加するのが非常に楽しみです。私は特に、片麻痺患者様の自動車運転操作について研究を行っています。仕事をしながらの研究活動は大変なこともあります。研究に対する姿勢や知識が学べることで、日々理学療法士としてステップUPしていきながら研究を味わっています。

神経系リハビリテーションコース **小川智生**  
 (福井総合病院勤務)

